



風の中のすゝばる、
その時、私の頭の中をあの中
島みゆきの勇ましいテーマソ
ングが流れていました。

そう、阿蘇の山奥の五十床足
らずの小さな病院の内科医であ
る私は今、何と大病院の手術
室で、四半の大きな食道がんを
内視鏡ではがす治療(ESDⅡ
内視鏡的粘膜下層はく離術)を、
衆人環視のもとやっているの
でした。

うれしい電話

話は一本の電話から始まりま
した。「大学医学部付属病
院のxxですが、先生に食道が
んを取って頂きたい患者さん
がいるのです」

私は唐突の電話に非常に驚き

阿蘇の山奥で最新医療

ました。なぜなら、私は一介の
町立病院医師であり、こちらの
大学医学部とは何の関係もあり
ませんでした。なぜなら、私は一介の
ません。それにもかかわらず、
その勇気ある先生は私が学会で
発表しているのを聞き、招請し
てくれたのでした。

臓器があるため、食道表在がん
食道周辺には心臓や肺などの
鏡治療は、非常に危険性と難易
度が高く、まだまだ九州では手
を出している先生が少ないのが
現状なのです。

（表面に留まる早期がんの内視
鏡治療は、非常に危険性と難易
度が高く、まだまだ九州では手
を出している先生が少ないのが
現状なのです。

赤の他人の私が、地元の大
病院で内視鏡を握って難しい患
者さんの治療をするなど誰が想
像したでしょうか。

私の場合、卒業四年間はのん
びりと田舎で診療してしました
が、五年目の後期研修の際に、
内視鏡(胃カメラ・大腸カメラ)
の再勉強のつもりで母校の消化
器内科(菅野健太郎教授)の門
をたたきました。

しかし、非常に光栄なこと。
このプロジェクトを請け負った
以上は安全に治療するのみで
す。中島みゆきの歌を心の中で
歌いながら約二時間、多くのギ
ャラリーを尻目に私は目の前の
画面にのみ集中し、何とか安全
に腫瘍(しゅよう)を取りきれ
たのでした。

そこで出会った、学生時代に
は気付かなかった最新医療の数
々。医師になって戻ると、母校
が全国的にも極めて高いレベル
の医療を行っていることを初め
て知りました。そこで、このE
SDなるものを山本博徳助教授
に伝授いただき、今に至ってい
るわけです。

いずれの病院でも、その先
生や職員たちはこの初めて見る
手技に驚き、好意的に受け入れ
てくれ、また幸いにも安全に出
来ています。これからも阿蘇の
山奥でこの最新の内視鏡治療
を、患者さんに行っていくつも
ります。

（次回予定は福岡県）

西村 誠 20期・1997年卒



通潤橋は1854(安政元)年に完成した国の重要文化財。国保蘇陽病院がある山都町のシンボル。水を渡す水路橋で、人を渡す橋ではない

山都町立蘇陽病院内科

【私の勤務地】山都町は熊本県の東部で、阿蘇南
外輪山から九州山地の脊梁(せきりょう)を圏域と
し、宮崎県と接している。当院はその標高約500
mにあり、開設して約60周年になる。熊本と神話の里
・高千穂とを結ぶ交通の要所に位置し、多数の宮崎
県からの患者さんが見える。

レベル高い母校

私たち自治医大卒業の医師
は、栃木の母校で学んだあと、
ほぼ全員、地元の病院で研修を
受けてへき地医療の現場に赴任
します。

（次回予定は福岡県）